地域を支える

農

農業人

WAZABITO

PROFILE

佐藤（さとう） 善昭（よしあき）さん

SATO YOSHIAKI

58歳

愛西市赤目町

安定出荷と挑戦を続ける

愛西市赤目町でイチゴを栽培する佐藤善昭さんは、約40年間にわたりイチゴづくりに向き合い続けています。所属するあまイチゴ組合の組合長として産地全体をまとめながら、育種サポーターとして新品種の選定・育成にも励んでいます。現在は「ゆめのか」と「愛きらり」を栽培し、東海三県や奈良県へ出荷をしています。

「やりがい」を求めて就農した佐藤さんは、農業を営む上で「イチゴの生育を第一に考えて生活すること」を大切に日々の作業に取り組んでいます。出荷期間を通して、安定した供給を行い、「売り場に穴をあけない」ことを常に意識しています。また、新しい技術への挑戦にも積極的な佐藤さんは、約24年前に土壌栽培から高設栽培へと転換し、作業効率の向上と身体への負担軽減を実現しました。

近年は猛暑の影響により育苗期から定植にかけて難しさも増していますが、「昨シーズンより順調」と話し、安定した生産に手応えを感じています。一方で、新品種「愛きらり」については「まだ栽培技術が確立していないので、これから色々なことを克服していきたい」と語り、さらなる品質向上を目指しています。

さらに、担い手育成にも力を注いでいる佐藤さん。令和8年2月に設立された※海部地域新規就農支援協議会では、いちご道場の会長も務めており、新規就農者への指導や助言を行っています。今年度は新規就農2人目の農家が組合に加わり、今後も担い手のサポートに尽力していきます。

「イチゴは生食だけでなく、ケーキなどのデザートにも幅広く楽しんでもらえる農産物。長い期間、多くの人に味わってもらえるのが魅力」と話す佐藤さん。最後に「あまイチゴ組合は、新鮮で安全安心なイチゴをいち早く届けていますので、ぜひ手に取ってほしいです」とメッセージをいただきました。

※担い手の確保や育成のために農業者やJA、行政が連携し、産地のPRや就農希望者の募集、研修受入相談などの取り組みを実施する組織